

第 62 回入学式学長告辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

今年度、本学には学士課程に 473 名、編入学生として 18 名、また、大学院修士課程に 9 名、特別支援教育特別専攻科に 6 名の新入生を迎えました。506 名の新入生の皆さんのご入学を歓迎いたします。また、第 62 回下関市立大学入学式を下関市長 前田 晋太郎 様にご臨席賜り、皆さんとともに迎えられましたこと、大変嬉しく思います。

今年の学部入学生は、3 年間の高校生活にコロナ禍が直撃し、気づけば大学生になったと感じている人も多いかもしれません。ともに学んだクラスメイトの顔もマスクで隠され、学校行事だけでなく様々なイベントが見送られました。私たち自身を守るためのソーシャルディスタンスは、皆さんが期待していた多くのチャンスを制限し、いつ終わるかもわからない状況への息苦しさをもたらしました。

それでも、今皆さんはここに立ちしっかりと前を向いています。今日の入学式は、コロナ禍に負けず、自分に負けず励んできたことの証明に他なりません。3 年間を逞しく乗り越えてきた皆さんを本学に迎えられましたこと、皆さんをこれまで支えてこられたご家族、ご親族の方々に、本学を代表して心からお祝いと感謝を申し上げます。

さて、私たち人類にとっての普遍的な課題は、飢餓と戦争、そして疫病だと言われています。確かに、新型コロナウイルスは世界的なパンデミックを引き起こしました。しかし、革新的なワクチンの開発や新しい生活様式を作ったテクノロジーといった科学の発展によって、人類はついに疫病の課題を克服しようとしています。未開拓の地に足を踏み入れる事で、これからも人間社会に未知のウイルスが広がることもあるでしょう。それを予測し、対処するのもまた科学です。皆さんがこれから 4 年間を過ごす大学は、科学的探究によって社会に役立つ「知」を生み出す、教育と研究のための専門機関です。過去の先人たちによって探求され、体系づけられた高校までの教科学習とは違い、大学では自ら探求者となって、学びにも「なぜ？」を問う姿勢が求められます。講義や研究、就職活動でも、常に「なぜ？」を問いかけながら「知」を突き詰めてください。

学問の探求に限らず、様々なことに「なぜ？」を問う姿勢をもちましょう。何か質問されたとき、皆さんは自分の考えを返せていますか。知らず知らずのうちに、相手の求める答えを探してはいませんか。人から見て良い答えや、素早く正しい答えを返す力が、皆さんのためになる力とは限りません。例えば、知能検査などで測る IQ とは、視覚的情報に早く正確に対応する処理速度です。処理速度という土俵の上で、すでに人間は AI に勝てません。しかし、AI ですら人間が開発し、人間が育てる道具であることに変わりありません。どれだけ AI が進化しようとも、道具をうまく使いこなせるかどうかは人間次第です。歴史学者のユヴァル・ノア・ハラリは、AI とバイオテクノロジーといった科学の道具を使いこなす一握りのエリートが、人類の大半を支配するかもしれない未来を予測しています。いずれ到来する未来に備えて、私たちが持つべき力は何でしょうか？

そのひとつは、質問に対してさらに「なぜ？」を問い、探求を深める良い質問を返す力です。この力を学習によって育て、今の世界をつくっているのがユダヤ人だと言われています。ユダヤ人は国籍や人種に関係なくユダヤ教徒である人々のことで、世界人口の約0.2%います。それにも関わらず、ノーベル賞受賞者の少なくとも20%がユダヤ人です。彼らが持つ「知」の強みは、必ずペアを組んでお互いが相手に質問をすることで議論を深めていく、独自の学習方法を確立したことにあります。さらに、答えの質よりも、真実に近づける良い質問であるかを問います。皆さんが大学4年間で身につけるべき力は、良い質問をする力です。大学での学びに対して、社会や世界に対して良い質問ができる人材になってほしいと思います。良い質問をするためには、自分が何を理解しており何を知らないかを知ること、同じように相手についても知ることが大事になってきます。

本学では、自己理解と他者理解、そこから生まれる共感力を育てるために、ESLOという学修成果評価指標を開発して、学内システムとして全学的に運用しています。自分の成績と自己評価を照らし合わせることで、自分自身の強みや特徴について理解し、大学4年間の学びについて主体的に考えることをサポートします。まずは、自分に対して「なぜ？」を問いかけてみましょう。自分が何をどのように考えていて、何を理解していて何を知らないのかを探求してみてください。自分自身を深く知ることが、他者との共感を見つける力になり、AIをはじめとした自分以外に支配されない力にもなります。

今年度から、本学もコロナ禍以前の対面授業を行うことになりました。これから皆さんは、多くの先生や学友に出会い、何ものにも代え難い4年間を過ごすことでしょう。「なぜ、大学で学びたいと思いましたか？」ぜひ、自分に問いかけてみてください。4年後の皆さんが、この質問の先にたどり着くことを期待して、2023年度の入学式の告辞とさせていただきます。

2023年4月4日

下関市立大学

学長 韓 昌完